

待望の新刊 旬報社から

和歌山事件、大阪スト事件、加茂生コン事件
無罪と有罪——判断は、どこで分かれたのか

この1冊で問題点がわかる



●労使関係像の転換と労働法理

『検証・関西生コン事件』第2巻が発刊された。

「刊行にあたって」では、小谷野毅・全日建書記長が和歌山事件逆転無罪判決とコンプラ事件大津地裁判決を紹介している。

巻頭には吉田美喜夫・立命館大学名誉教授の論稿「労使関係像と労働法理」。企業内労使関係に適合した従来の労働法理の限界を指摘しつつ、多様な働き方を基盤にした団結が求められていることをふまえた労使関係像と労働法理の必要性を検討している。

●鑑定意見書と判例研究

第1部には大阪ストライキ事件控訴審に提出された古川陽二・大東文化大学名誉教授の鑑定意見書、榊原嘉明・名古屋経済大学教授の判例研究を収録。

第2部には刑法学者の松宮孝明・立命館大学教授の加茂生コン事件大阪高裁判決の判例研究を収録している。

<目次>

刊行にあたって——6年目の転機、無罪判決2件が確定（小谷野毅）

序・労使関係像の転換と労働法理（吉田美喜夫）

第1部 大阪ストライキ事件

関西生コン大阪ストライキ2次事件・控訴審判決について（古川陽二）

関西生コン大阪2次事件・鑑定意見書（古川陽二）

「直接労使関係に立つ者」論と団体行動の刑事免責（榊原嘉明）

第2部 加茂生コン事件

労働法理を踏まえれば無罪（吉田美喜夫）

労働組合活動に対する強要未遂罪の適用の可否（松宮孝明）

A5判、143ページ、定価1000円＋税、旬報社刊

●割引価格あり。お問い合わせは…honbu@tu-rentai.org

発行：全日建（全日本建設運輸連帯労働組合） お問い合わせ03-5830-6418